

「記載内容は変更されることがあります」

科目名	実務研修	英語科目名	Internship	
開講年度・学期	平成26年度・前期	対象学科・専攻・学年	複合工学専攻 電気情報工学コース1年	
授業形態	実習	必修 or 選択	必修	
単位数	2単位	単位種類	学修単位(45h)	
担当教員	担当教員	居室（もしくは所属）	担当教員の居室	
電話	担当教員の内線	E-mail	担当教員@小山高専ドメイン	
授業の到達目標	授業到達目標との対応			
		小山高専の教育方針	学習・教育到達目標 (JABEE)	JABEE 基準
	1. 実務研修の内容を正しく把握できる。	⑤, ⑥	E	d-2,d-4,f,g
	2. 実務研修先指導者の指示に従い、自主的・積極的・計画的に実施できる。	⑤, ⑥	E	d-2,d-4,f,g
	3. 実習結果を文書および口頭で正しく表現・報告できる。	⑤, ⑥	E	d-2,d-4,f,g
	4. 実務研修の趣旨を正しく理解して、計画を立案できる。	⑤, ⑥	E	d-2,d-4,f,g
	5. 実務研修の取り組み状況を説明できる。	⑤, ⑥	E	d-2,d-4,f,g
	6. 実務研修の報告書を様式に従って作成できる。	⑤, ⑥	E	d-2,d-4,f,g
7. 実務研修で実施した内容を整理された形で発表できる。	⑤, ⑥	E	d-2,d-4,f,g	
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法				
到達目標1～3:実務研修先指導者が評価し、60%以上の評価で達成とする。 到達目標4, 5:研修前の計画および研修後の報告より担当教員が評価し、60%以上の評価で達成とする。 到達目標6, 7:研修後の報告会の概要書・発表内容より担当教員とコース教員が評価し、60%以上の評価で達成とする。				
評価方法				
到達目標1～3:実務研修先指導者の採点 60 点と、到達目標4～7:学内での報告会をもとに担当教員 70 点・コース教員 30 点の配分で採点する。 これらの採点結果より、以下の式で評価を算出する。 評価 = (担当教員採点+コース教員採点平均+実務研修先指導者採点)*100/160				
授業内容				
<p><研修テーマ(研修先)とこれまでの実施例></p> <p>研修先および研修テーマは希望により決まる。これまでの実施例を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ FPGA によるシステム開発(平河ヒューテック古河工場) ○ Web 掲示板プログラムの開発(カテル有限会社) ○ EMPA による解析・調査(高岳製作所) ○ 石灰焼成炉の監視・点検実務と監視プログラムの作成(村瀬石灰工業株式会社) ○ 解析装置、回路基板、センサの調整検査(株式会社小野測器宇都宮) ○ 有機電界効果トランジスタの試作評価(物質・材料研究機構) ○ 磁界印加コイルのインピーダンス整合実験(産業技術総合研究所) ○ 窒化ガリウム半導体エピ成長実験(株式会社パウデック) ○ 機器試験用ケーブルの作製評価(日本信号株式会社) ○ 水晶振動子の作製(セイコーインスツルメント株式会社) ○ 化学修飾した銀ナノ粒子の合成と二次元配列作製条件の最適化(物質・材料研究機構) ○ ハイブリッドレーザアニール法を用いた wire-δ-doped Si の Bi ドナーの電気的・光学的活性化(物質・材料研究機構) ○ 乾燥空気の高電圧実験、開閉器の評価(株式会社高岳製作所) ○ アンブ外観検査装置のプログラム作成など(株式会社栃木富士通テン) ○ LGB 発光デバイス検査など(株式会社ミットヨ) ○ RFID 製品の評価試験など(株式会社イーアンドエム) 				
キーワード	インターンシップ、工場			
	特になし			
参考書	実習内容に必要な文献			
カリキュラム中の位置づけ				
前年度までの関連科目	すべて			
現学年の関連科目	すべて			
次年度以降の関連科目	すべて			
連絡事項				
<p>事前に研修予定企業と打ち合わせを行い、研修の内容を決定する。研修時期は原則として夏季休業期間中とし、2週間(90 時間以上)の期間を必要とする。</p> <p>学生へのメッセージ: 社会人として企業などに就職する前に、短期間ながら企業の仕事に携わることが出来るので、将来の仕事への適応性などを念頭に置きつつ研修を行うと良い。また、学校とは異なる視点から評価されることから、社会人としての資質などを考える良い機会となろう。</p>				
シラバス作成年月日	平成 26 年 2 月 28 日			